

令和2年度 地方創生交付金事業評価結果

令和3年8月11日南丹市地域創生会議

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
1	1	1-1 サテライトオフィス誘致事業者等支援事業 (商工課)	① 8名 ② 1名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「働き方改革」さらには「コロナ禍」により、加速している「サテライトオフィス」に必要な自然に囲まれた通信環境が整っている田舎の強みを生かして、さらに充実するべき。</li> <li>●南丹市には空き家が多くサテライトオフィスにより空き家の活用ができた。</li> <li>●事業の成果が表れており有効と判断する。</li> <li>●ワーケーションニーズへの高まりを捉えつつ、空き家活用と企業誘致、しごとづくり、定住促進へとつなげるため、有効な施策と判断する。</li> <li>●情報インフラ整備、地域との関係深化・ネットワークづくりなどを進め、定着と地域への波及効果が生まれるよう、関連する施策を有機的につなげていく必要がある。</li> <li>●コロナ禍にあり結果的に時流に乗った施策であったと評価します。開設後の雇用の創出、地域経済の活性化につながった成功事例の見える化を期待する。</li> <li>●事前ヒアリングをして希望者を絞ったのは予算の効果的な運用によかった。</li> <li>●サテライトオフィス2社なのは、今後の伸びしろに期待したい。よって②</li> <li>●コロナ禍によりサテライトオフィスの活用増加を期待することからも評価する。</li> <li>●サテライトオフィスの展開に併せて南丹市事業にも積極的に協力いただいているようであり、事前ヒアリングが活かされている。</li> </ul>
1	1	1-2 商工振興助成事業（創業支援） (商工課)	① 7名 ② 2名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●セミナーに加えて、受講生が実際に起業をするところまで丁寧なサポートもセットにする必要がある。</li> <li>●創業セミナーを開催され南丹市の特色を活かした仕事、人づくりができた。</li> <li>●直接評価できるKPIはないが、実績があり今後期待する。</li> <li>●セミナーに満員の受講申込があり、当市における創業支援に向けたニーズに対応しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●平成28年度から実施しているセミナー受講修了者は48名であり、うち8名が市内で創業している。定着と地域への波及効果へつなげるため、伴走支援が重要であり、金融機関、国・府の産業支援機関との連携を充実させていく必要がある。</li> <li>●いつの時代も創業が多いことは活性化につながると考えます。継続的な取り組みが必要と判断します。</li> <li>●まち全体で起業者を応援する風土づくりも重要と考えます。誰がいつどんな起業をしているのか、情報発信していくこともご検討いただきたい。</li> <li>●丁寧なセミナー開催で、先輩事業者とも関わることができ、有効な事業だと思う。</li> <li>●参加者がもう少し増えると良い。オンラインも活用して増やせないか。</li> <li>●創業支援を継続的に実施することで市へ相談しやすい体制を作り、起業後も支援機関と協力しながら伴走支援の体制がとれている。</li> </ul>
1	1	1-3 南丹市販路開拓支援事業 (商工課)	① 6名 ② 3名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍であるが事業者の経営の安定、発展のため新たな販路を開拓していく必要がある。</li> <li>●コロナ禍での在庫品活用なども含めて、創業5年以内の事業者の販路開拓を伴走支援する施策として有効であると判断する。</li> <li>●ICT技術を活用したオンライン見本市やECサイト展開など、遠隔地への市場へも遡及できる方策を構築していく必要がある。</li> <li>●事業者にとって直接的に有益な取り組みとなり、結果も見えやすく引き継ぎ継続する必要があると考える。</li> <li>●起業から5年以内に限らず、広く事業者の支援をしてもよいのではないか。</li> <li>●個別の支援と同等に、南丹市全体に広がるイメージ戦略があればなおよいと考える。</li> <li>●起業してすぐは挑戦しにくい展示会に参加でき、商工会の伴走もありよい事業だと思う。</li> <li>●コロナ禍で展示会が少ないため、ECサイトへの出店なども含められるとよかった。</li> <li>●地域特産品の販路・出口を支援することで起業支援に繋がり、事業継続につなげている。</li> </ul>
1	1	1-4 間伐材出材奨励事業 (農山村振興課)	① 4名 ② 5名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●林業の町（美山町）木材生産は採算が厳しい中有効である。</li> <li>●林業振興に必要な事業であると判断する。</li> <li>●H30以降、搬出量が減少してきており、原因分析と有効な対策が必要。</li> <li>●ウッドショックによる木材価格の高騰をチャンスに変えられるよう、搬出体制整備、コストに見合う価格での取引が可能となる仕組づくりを進めていくことが必要。</li> <li>●地方創生という観点から、さらに活動を深める必要があると考える。この活動をビジネスに乗せ、雇用創出に繋がらないか。搬出された間伐材が、地域の建物に活かさないか。森林の荒廃を食い止める活動に対し、行政だけでなく、企業のSDGsの活動と連携できないか。</li> <li>●実施結果は年によってばらつきがあるが、一定量、促進に寄与している。</li> <li>●府内事業者から、地域の木を使いたいが、購入する仕組みが整っていないと伺っている。京都府や、木材市場とも連携して、地場産材活用がもっと進むとよい。</li> <li>●間伐材の事業は山の保全という点では有効と思えるが、植林、保育など造林に如何に繋げていけるかが次の施策として必要と思う。</li> </ul>

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
1	1	1-5 特用林産振興事業 (農山村振興課)	① 7名 ② 1名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●収穫までに時間を要するために引き続き取組みを継続し、成果が現れることを期待したい。</li> <li>●朝倉山椒を南丹市の特産として全国にアピールしていく。</li> <li>●すぐに実績は出ないが、農地の維持・活用において今後を期待する。</li> <li>●地域の歴史的背景や時機を活かした品種を選定し、京都府南丹農業改良普及センターとも連携して、品質向上を生産量拡大、地域特産物としての定着とともに、加工業や飲食業への波及効果が期待できる。</li> <li>●最終消費者へアピールできる商品価値を明確にしたプロモーションを進めたい。</li> <li>●具体性あり。成果としても非常に分かりやすい。他の農産物についても、こうしたストーリーで、しっかりブランド化しよい仕事を生み出して欲しい。</li> <li>●収穫までまだ時間がかかり、評価しづらいが、歴史とからめてPRできるよい産品になることを期待。</li> <li>●朝倉山椒は京都府の地域産業資源・農林水産物として南丹市は登録されているのか。今後の取り組みに期待したい。</li> <li>●里山や景観の保全・土地改良なども含めた大局的・長期的視点で取り組まないと成果が上がらない事業。ただ植えるだけの事業になってはいけない。</li> <li>●最近台風対策も必要。</li> </ul>
1	2	1-6 小規模企業支援事業 (商工課)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍で厳しい経営環境にある小規模企業の経営安定と新たな設備投資の推進のため、有効な施策と判断する。</li> <li>●伴走支援が重要であり、金融機関、国・府の産業支援機関との連携を充実させていく必要がある。</li> <li>●資金融資をきっかけに、本業のサポート、事業主の相談に乗ることも、官民で協力して行っていきたい。</li> <li>●市内事業者の経営安定化は、市内で仕事をして暮らす人にとって重要。</li> <li>●一定の融資要件に対し保証料補給、利子補給することで事業者に対する経営安定支援を行っている。継続的に支援を受けているが、有効と認める。</li> </ul>
1	2	1-7 ものづくりのまち推進事業 (地域振興課)	① 6名 ② 3名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●南丹市を「ものづくり」の町としてPRするのであれば、観光課や広報課とも連携した情報発信も効果的だと思う。</li> <li>●南丹市工芸家協会と連携して、工芸体験と作品展示を行うなど、市内外のファンづくり、ネットワーク構築に有効な施策と判断する。</li> <li>●ニーズを的確に捉えた体験型商品等の充実を図り、付加価値向上と、新たな需要開拓を進めたい。</li> <li>●地域産業の担い手としての作家の支援を行っていくことは、非常に重要と考える。</li> <li>●継続的な支援と、海外向け、国内向け、近隣向けなど様々なカテゴリー向けの施策を期待する。</li> <li>●企業に勤めるだけではない多様な働き方を後押しできる事業だと思う。</li> <li>●伝統工芸大学の学生には、南丹市工芸家協会の存在を知らない人が多い。連携するとより定住に繋がるのでは。</li> <li>●委託事業としては情性になっている雰囲気があるので、交付金対象となったことをきっかけに、発展させて欲しい。</li> </ul>
2	1	2-1 空き家流動化対策事業 (地域振興課)	① 5名 ② 3名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●③のガイドブックについては、移住者向け、つまり市外に在住している人に届けるためには紙媒体ではなくWEB掲載に適したレイアウトの電子媒体が望ましい。</li> <li>●「働き方改革」、さらには「コロナ禍」により、働くことへの考えが変化している中で、南丹市の強みを生かしたテレワーク・コアスペースとしての田舎暮らしを提供できるよう推進するべき。</li> <li>●空き家になる時、持ち主に空き家バンク登録を促す。空き家が多くなっている美山では田畑や山がついているため地域ぐるみの取り組みは難しい。</li> <li>●地域団体と連携して、空き家の掘り起こしや家財道具の撤去支援等を行い、空き家の有効活用に繋がっており、有効な施策と判断する。</li> <li>●期待を込めて②とした。地域の危機感からも、最優先で取り組むべき課題だと考える。民間でもこうした動きが具体化しているので、協力するべき。</li> <li>●空き家の登録件数の増加に繋がって有効。</li> <li>●物件の選択肢を増やすことが移住者を増やすことに繋がるため、積極的な掘り起こしが必要だが、地域住民同士では声をかけにくいことも多い。空き家所有者に市から働きかけられるようになるとよりよいと思う。</li> <li>●成果が出ており有効と評価する。</li> <li>●空き家とセットの農地について、流動化に向けて南丹市の下限面積をさらに緩和することも検討すべき。</li> <li>●早い段階で空き家と農地を分離させるとか農業振興地域については農業委員会に預ける、というようなシステムを作っていないと農地の流動化も進まないと思うが、集落営農だけでは南丹市の問題は解決できないようにも思う。</li> <li>●市のプロジェクトに期待したい。</li> <li>●トータルとしてこれからの農山村デザインのようなものや、府市の施策連携が必要という課題があるが、単体の取り組みとしては有効。</li> </ul>

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	1	2-2 定住促進サポートセンター運営事業 (地域振興課)	① 7名 ② 2名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●なんくらは情報更新頻度も高く、コロナ禍で移住問い合わせが増加した際に紹介しやすい媒体であった。</li> <li>●「働き方改革」、さらには「コロナ禍」により、働くことへの考えが変化している中で、南丹市の強みを生かしたテレワーク・コアスペースとしての田舎暮らしを提供できるよう推進すべき。</li> <li>●土地、農地の相談窓口が必要ではないか。</li> <li>●事業の成果がKPIにも表れており、有効と判断する。</li> <li>●移住希望者、空き家所有者、地域団体からの相談対応や空き家バンク物件の紹介を行い、定住促進に寄与しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●期待を込めて②としている。地域の危機感からも、最優先で取り組むべき課題だと考える。民間でもこうした動きが具体化しているので、協力するべきだと考える。</li> <li>●移住先での暮らしを長くしていただくためにも、仕事探しと綿密に連携すべきだと考える。</li> <li>●空き家の登録件数の増加につながっていて有効。</li> <li>●物件の選択肢を増やすことが移住者を増やすことに繋がるため、積極的な掘り起こしが必要だが、地域住民どうしでは声をかけにくいことも多い。空き家所有者に市から働きかけられるようになるとよりよいと思う。</li> </ul>
2	1	2-3 定住促進地域情報発信ツール整備事業 (地域振興課)	① 4名 ② 5名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●成果物の積極的な活用方法をさらに進めることで有用なツールとなるのではと思う。</li> <li>●地域の教科書づくりや情報発信冊子等が他の地域に広がり移住者希望への情報提供が必要。</li> <li>●基本目標2に寄与しており、整備が進んでいない地域にも取り組みが広がることを期待する。</li> <li>●集落の生活様態や習慣、地域資源など移住希望者が求める情報を提供するとともに、今後の地域のあり方を考える契機ともなっており、有効な施策と判断する。</li> <li>●期待を込めて②としている。地域の危機感からも、最優先で取り組むべき課題だと考える。</li> <li>●移住における課題の解決策として、地域の皆さんからの情報発信は、非常に有益であると考え。また受け入れ側の理解も非常に大切。こうしたきめ細かい活動が地域全体の力になると考える。</li> <li>●まちのことを詳しく理解してもらってからの移住は、定住に繋がって有効。</li> <li>●集落の教科書は全国的にも先進的な取り組みで、冊数も増えていることから、もっと積極的にPRに活用してもよいと思う。こういうものが作れる地域は、コミュニティとしての魅力も体力もある。移住者だけでなく、移住希望者が見ている雑誌やWEB媒体にも取材してもらえらる内容だと思う。</li> </ul>
2	2	2-4 観光イベント振興事業 (観光交流室)	① 3名 ② 4名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍におけるイベント中止は、やむを得ない所だが、イベントの主役となる観光資源は、無観客となっても映像、画像、暮らし人々の思いは、市民をはじめ、全国に情報発信できることを考えることが大事である。</li> <li>●イベント開催は地域住民と観光客との交流で大切な取り組みである。</li> <li>●コロナ禍のため、イベントが実施できなかったが、地域が主体となって創意工夫をした取組が持続できるため、必要な施策と判断する。</li> <li>●市民の地域への誇りや一体感をいかにして高めるかを、地域の力だけではなく、専門家の意見も参考にすべきだと考える。</li> <li>●該当イベントの開催は叶わなかったが、今後の運営について考えたり広報資料を整理するなどできることはあったように思う。</li> <li>●対外的なイベントということと、市民の地域への誇りは、区別して数値をとったほうがよい。</li> <li>●対外向けであれば、販売物の値段をもう少し上げて、住民の負担感が減るようにするなどした方がよいのではないか。</li> <li>●地域で実施していただく振興事業には最低限でも支援をして欲しい。止めることは簡単であるが、従前のものの維持継続も必要と考える。</li> <li>●実施できていないので有効とは言えない。</li> </ul>
2	2	2-5 観光宣伝事業（その他宣伝事業） (観光交流室)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●南丹市としての観光戦略に基づく事業計画が求められる。単に人の流れを作るのではなく、地域としてどのようなお客様に訪ねいただき、何を地域の魅力として売り出すのか方針がなければ評価が難しい。</li> <li>●地域住民や商工会と連携し、「八木城」を新たなキラーコンテンツとしていくため、有効な施策と判断する。</li> <li>●期待を込めて②としている。地域の活性化のためにも最優先で取り組むべき課題だと考える。</li> <li>●観光客も、近隣、国内、海外と様々なカテゴリーに分けられると思う。それぞれ、必要なものは違うと考える。徹底的なリサーチと戦略を考える必要があると考える。</li> <li>●コロナ禍であるが、日本人に目を向けた取り組みで、歴史好きを中心に集客ができていて有効だったと思う。</li> <li>●来訪客が、さらなるファンを呼ぶような広報の仕組みや、客単価を上げる工夫につながるとよりよい。</li> <li>●市の魅力発信に期待することからも評価する。</li> </ul>
2	2	2-6 観光宣伝事業（美山DMO補助） (観光交流室)	① 5名 ② 3名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍ではあるが5月の連休に3000人の人が美山に来られている。</li> <li>●美山における観光地域づくりを担い、国内外への情報発信、事業者支援、人材育成などをトータルにコーディネートし、国・府事業も活用しながら活動を深化させており、有効な施策と判断する。</li> <li>●こうした具体的な施策の積み上げが必要であると思います。美山で一定の効果が確認できれば、日吉、八木、園部にも同様の取り組みが行われることを期待します。</li> <li>●コロナ禍のなかでも人気のある美山町エリアだが、予算規模が大きい分、美山町以外の地域への波及効果や、森の京都DMOとの連携がもっとはかれるとよかった。</li> </ul>

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	2	2-7 観光協会事業 (観光交流室)	① 3名 ② 6名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●旧町ごとに組織化された観光協会への支援を行うことにより、各地域の有する魅力や人材を活かした取組を推進しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●従来からあるコンテンツのよさをさらに磨きをかける必要があると考える。利用者の声を聞いて、リピーターの増加やその発信に期待したい。</li> <li>●コロナ禍であるが、日本人に目を向けた取組みで、歴史好きを中心に集客ができていて有効だったと思う。</li> <li>●各町の協会が連携しあって、来訪客が、さらなるファンを呼ぶような広報の仕組みや、客単価を上げる工夫につながるとよりよい。</li> <li>●協会同士がもっと連携できる余地があるように思うので、徐々に深めて欲しい。</li> </ul>
2	2	2-8 都市と農村との交流事業 (観光交流室)	① 4名 ② 4名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全国のエコツーリズム関係機関とも連携し、地域の自然環境の保全と利用の両立を図りながら、地域活性化を進めており、有効な施策と判断する。</li> <li>●農業体験ツーリズム、農家民宿が主体なのか、西の鯖街道が主体なのか、わかりにくかったが、ヒアリングの説明にてシビックプライド醸成にすごく時間をかけている素晴らしい取組みであると理解した。</li> <li>●コロナ禍の中で、より見直される美山町エリアになり、美山町以外の地域への波及効果をさらに狙い、森の京都DMOとの連携がもっとはかかって欲しい。</li> <li>●大きな枠組みの中で何をやるのか、1つ1つの取組みの繋がりを大事にして欲しい。</li> </ul>
2	2	2-9 観光文化資源活用推進事業 (観光交流室)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森の京都DMOと連携するなど、磨き上げたコンテンツを商品化し、より多くの人に楽しんでいただく工夫が求められる。</li> <li>●文化庁事業の採択を受けて、コンテンツ開発、映像のデジタル化に総合的に取り組んでおり、有効な施策と判断する。</li> <li>●WEB中心にとあるが、なんたんデジタルミュージアム、なんたんエコミュージアムのHPが見当たらなかった。</li> <li>●はじまったばかりの事業で評価がしづらいが、情報整理ができたということで、今後期待したい。</li> <li>●WEBサイトがこれからできるという点を踏まえて評価する。</li> </ul>
2	2	2-10 総合振興計画進行管理事業 (企画財政課)	① 4名 ② 4名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生がの皆さんが町づくりに関わっていただけることは、大変喜ばしいことだが、南丹市内にも多くの高等教育機関がある中で、相互が交流する取組みができればと思う。行政が取り組む地域振興計画の実現に向けた施策が見えてこない。実現しようとする「やる気」があるのかが見えない。</li> <li>●市民意識調査や学生の視点からみた南丹市の魅力の発見・整理を行っており、有効な施策と判断する。</li> <li>●学生に限らず、今後大手企業の副業の解禁に合わせて、自然豊かな里山の環境と生活の糧となる仕事がリンクする企画があればよいと思う。</li> <li>●無作為抽出のアンケートで約4割の回答率は有効だった。</li> <li>●今後も若者を関係人口化する取組みは必要だと思う。</li> <li>●雇用されている学生はとても喜んでいる。取組みとしてさらに工夫したい。</li> <li>●今の取組み方を超えて、市内教育機関の学生達と交流してまちづくりを考えてはどうか。</li> </ul>
2	2	2-11 スポーツ拠点づくり推進事業 (市民協働室)	① 1名 ② 5名 ③ 3名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍でのトライアスロンの中止は残念である。今後の健康維持のため何か工夫して取り組んで欲しい。</li> <li>●豊かな自然環境を満喫しながら、全国から誘客できるイベントとして定着してきており、有効な施策と判断できる。</li> <li>●コロナ禍で開催できなかったが、早いタイミングで中止を決定し、最低限のコストで済ませられた。</li> <li>●トライアスロンに限らず、南丹市で取組みが可能なあらゆるスポーツイベントがあればよいと思う。(サイクリング、釣り、低山登山、などなど)</li> <li>●今年は開催できなかったが、今後に向けたマニュアルができたことは評価したい。</li> <li>●今後、より一層、健康に関心が高まることが予想されるため、その需要を拾う事業になるとよい。</li> <li>●開催中止となり残念です。今後期待する。</li> </ul>
2	2	2-12 山村留学事業 (社会教育課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定住促進と連携し、対象児童が就職活動を始める時期に、2-1や2-3で作成したツールや情報を送るなどできると相乗効果があるように思う。</li> <li>●25年の長きにわたり、この事業に関わっていただいている地域の方々の熱意に敬意を表す。行政もその熱意に応えていただきたい。</li> <li>●自然豊かな地域で四季を通じてのびのびと生活できるよう、これからも事業を継続し支援が必要。</li> <li>●過疎少子化に悩む地域において、都市の児童を対象とした山村留学に永年にわたり取り組んできており、世代を超えた濃厚な関係人口を生み出してきており、有効な施策と判断する。</li> <li>●里山の暮らしに目を向けていただくきっかけにもなる事業だと考える。日本人らしい生活の営みがある場所として、山村の生活を良さを広く知っていただく効果があると思う。</li> <li>●こうした活動で子供に与える影響を学術的、または文化的な側面からも調査し、実施後の効果を検証する必要があると考える。</li> <li>●地域みらい留学など、新しい動きも出ている。</li> <li>●関係人口を創ることはよいことだが、市の負担が大きいため、都市児童の保護者の負担を大きくできないか。それでも来たい人は来ると思う。</li> <li>●受け入れ側の高齢化のため、負担が大き過ぎる。特定の方に負担が偏らざるを得ない事業。</li> <li>●小学校再編の影響で事業自体の意味合いが変わってしまった。</li> <li>●卒業生の1ターン実績が2名ほどしかいないため、流れが変えられなかった。</li> <li>●この事業が25年続いたことが素晴らしい意義のあること。競争社会に入る前に農村生活を体験することは、価値観の転換に繋がる。</li> <li>●1年という留学期間が長過ぎるように思うので、これまでの取組みを踏まえ、新しい形を検討して欲しい。</li> </ul>

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	2	2-13 商工振興助成事業（商工会 イベント補助）  (商工課)	① 2名 ② 5名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍においてのイベント中止は、やむを得ないところだが、イベントの主役となる観光資源は、無観客となっても映像、画像、暮らす人々の思いは、市民をはじめ、全国に情報発信できることを考えることが大事である。</li> <li>●地域の活性化に繋げていって欲しい。</li> <li>●コロナ禍のため、イベントが実施できなかったが、地域が主体となって創意工夫をした取組が持続できるため、必要な施策と判断する。</li> <li>●ファン創出に向けて多くの人が集客できるとのことで、有効と考える。</li> <li>●イベントが少ない中での貴重な催しとなった。</li> <li>●対外的なイベントということと、市民の地域への誇りは、区別して数値をとり、内容もどちら向きか考えた方がよい。</li> <li>●コロナ禍で実施できない状況が続いているが、来るべき時期の為に継続支援をしていくことは有効である。</li> </ul>
2	2	2-14 歴史遺産振興事業（大河関 係）  (社会教育課)	① 4名 ② 4名 ③ 0名 ④ 1名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内向きの事業が多いため、“新しい人の流れをつくる”とそぐわないように思う。</li> <li>●大河ドラマブーム、文化庁事業とも連携させながら、コンテンツを集約させて展開しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●期待を込めて②とする。天然のアトラクションのように、八木城が最近流行りのVRなどを駆使して、登山の登る途中も楽しく、また、登ってからの絶景も楽しみ、そして身体によい運動であることを詰め込んでPRするべきだと思う。</li> <li>●コロナ禍であるが、日本人対象に歴史好きを中心に集客ができていて有効だったと思う。今回の調査を今後にも生かして欲しい。</li> <li>●地域の誇りの醸成が目的なら評価できるが、外部からの誘客が目的であるなら、大河と城は経済効果が弱いという視点も持つべきである。</li> </ul>
2	2	2-15 展示会事業（大河関係）  (社会教育課)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2-14～2-16に共通して言えるが、南丹市の新しいファンを八木城や園部城など歴史文化を用いることで獲得するというのであれば、WEB上での発信にも注力する必要があると感じられる。検索しても十分な情報が出てこないのが残念である。</li> <li>●京都府、文化財所有者とも連携しながら、コンテンツを製作しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●八木城というコンテンツを育てるために、今後様々な試行錯誤が必要だと思う。</li> <li>●関連事業との連携が必要と考える。</li> <li>●コロナ禍であるが、日本人対象に歴史好きを中心に集客ができていて有効だったと思う。今回の調査を今後にも生かして欲しい。</li> </ul>
2	2	2-16 展示会事業  (社会教育課)	① 4名 ② 5名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●南丹市の魅力を広める人との交流が大切である。</li> <li>●南丹市の歴史や民俗文化を発信し、新しいファン獲得に取り組んでおり、有効な施策と判断する。</li> <li>●ファン創出に向けて多くの人が集客できるとのことで、有効と考える。</li> <li>●南丹市の歴史や自然の文化を調査し伝えることは重要。</li> <li>●市外や海外にもターゲットを定めるならば、広報物のデザイン費用は削減しない方がよい。</li> <li>●歴史的人物の意外なエピソードからパワースポット化している事例もあるので、学術的裏付けをしたうえで分かりやすく魅力的に、地域にも発信して欲しい。</li> </ul>
2	2	2-17 山陰本線南丹市広告宣伝事 業  (地域振興課)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●首都圏でも情報発信を行い、南丹市へのふるさと納税を含めた関係人口の創出に向けて、有効な施策と判断する。</li> <li>●広告は一定の効果が見込まれるが、地方創生推進交付金だけでも数種類ある。それ以外の市が行う広告も含めて、HP、SNS、メディア、草の根活動の活用など、専門家あるいは地元関係者がトータルに考えて実施するべきだと思う。いわゆる結果に責任を持つプロの知恵も必要と考える。</li> <li>●新しい切り口の取り組みで、SNSや新聞でも話題になり、有効だったと思う。</li> <li>●委託先事業者から事業効果を測れるデータが入手できないか。</li> </ul>
2	2	2-18 シティプロモーション推進事業  (秘書広報課)	① 7名 ② 2名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若手職員や地域のクリエイター等とのコラボレーションにより、斬新かつ効果的な媒体を作成・発信しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●広告は一定の効果が見込まれるが、地方創生推進交付金だけでも数種類ある。それ以外の市が行う広告も含めて、HP、SNS、メディア、草の根活動の活用など、専門家あるいは地元関係者がトータルに考えて実施するべきだと思う。いわゆる結果に責任を持つプロの知恵も必要と考える。</li> <li>●新しい切り口の取り組みで、SNSや新聞でも話題になり、有効だったと思う。</li> </ul>
2	2	2-19 地方創生拠点整備事業  (社会教育課)	① 7名 ② 2名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生涯学習の場として活用されたい。</li> <li>●生涯学習・文化・芸術の拠点施設の機能充実のため、有効な施策と判断する。</li> <li>●コロナ禍にあり評価が難しいが、今後最大限活用されることを期待する。</li> <li>●時節柄、効果を試す催しがありすぎておらず、評価がしづらいが、今後、京都府中部の文化的拠点になることを期待する。</li> <li>●口丹波地域に劇場型ホールは無く、存続いただき整備ができたことで本地域の教育、文化の拠点となり得る。コロナ禍で人々の心にはいつも以上に潤いが必要であり、忘れがちな文化継承に本拠点が益々活用されることを期待する。</li> </ul>

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由	
2	2	2-20	① 6名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生涯学習・文化・芸術の拠点施設の機能充実のため、有効な施策と判断する。</li> <li>●コロナ禍にあり評価が難しいが、今後最大限活用されることを期待する。</li> <li>●時節柄、効果を試す催しがあまりできておらず、評価がしづらいが、今後、京都府中部の文化的拠点になることを期待する。</li> <li>●従来から地域コミュニティの拠点であり、コロナ禍で思い通りの活用は出来ていないが、今後期待する。</li> </ul>	
		地方創生拠点整備事業	② 3名			
			③ 0名			
			④ 0名			
			⑤ 0名			
4	1	4-1	① 6名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発達障害をはじめ、特別な支援を要する児童へのきめ細かな指導支援が充実することを望む。</li> <li>●府の事業を補充する形で、きめ細かく個に応じた指導や支援を行っており、有効な施策と判断する。</li> <li>●共生社会づくりには非常に大切なことだが、一人ひとりに対する個別の支援であり、多くの人が関わり工夫することが大切だと感じる。</li> <li>●市民意識調査が上がっているが、まだ二割程度なので、今後期待したい。</li> </ul>	
		特別支援教育推進事業	② 3名			
			③ 0名			
			④ 0名			
			⑤ 0名			
4	1	4-2	① 6名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●誰もが希望をもって住み慣れた地域で住み続けられるよう継続した支援が必要。</li> <li>●各障害者団体の活動の活性化に寄与しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●障がい者の活動の幅を広げ、共生できる社会づくりに有効であったと考える。</li> <li>●市民意識調査が上がっているが、まだ二割程度なので、今後期待したい。</li> <li>●会員が減っている団体については、統合するなどして効率化できないか。</li> </ul>	
		障害者団体活動支援事業	② 2名			
			③ 1名			
			④ 0名			
			⑤ 0名			
4	1	4-3	① 6名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●障がい者の働く場、工賃単価のアップが必要。</li> <li>●障がい者の収入向上につなげるため、事業所間の連携、営業の効率化、市場ニーズの共有、共同受発注窓口の開設等を行っており、有効な施策と判断する。</li> <li>●障がい者の活動の幅を広げ、共生できる社会づくりに有効であったと考える。</li> <li>●仕事を頼みやすく、受注しやすくする取り組みで、評価できる。</li> </ul>	
		障害者就労支援ネットワーク運営事業	② 2名			
			③ 1名			
			④ 0名			
			⑤ 0名			
4	1	4-4	① 4名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本事業と関連するKPIが不明である。災害時の緊急連絡や防犯関連情報は南丹市の防災無線でカバーされているように思う。</li> <li>●暮らしの情報として常に活用されたいが高齢者の方はスマホ操作が難しい。</li> <li>●アプリ登録者も限られており、判断が難しい。</li> <li>●高齢化率の高い美山地域の「安心・安全な地域づくり」に資する取組として、有効な施策と判断する。</li> <li>●多くの市民に利用していただき、モデルケースとなって、他の町にも波及することを望む。</li> <li>●登録者数が人口に対して少なく、ランニングコストをかけ続ける必要があるか。</li> <li>●防災無線や市のメールやラインもあるため、その棲み分けやコストも考えて実施するべき。</li> <li>●担当部署ヒアリングを踏まえても、発展は期待しにくい。広めるならスマホ教室などの対策が必要。</li> <li>●スマホというハード面よりも、通知アプリ化させているソフト面の弱さが課題。</li> <li>●ライブカメラ機能が最も利用価値が高いため、その運用方法を検討するか、その機能をアプリとは別の形で活かすべき。</li> </ul>	
		美山暮らし情報配信システム整備事業	② 2名			
			③ 1名			
			④ 2名			
			⑤ 0名			
4	1	4-5	① 7名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年齢や障がいの有無にかかわらず誰もが安心して住み続けられることを願う。</li> <li>●国の支援対象外となっている内容について、手厚く支援してきており、有効な施策と判断する。</li> <li>●事業規模は小さいものの、なくてはならない事業だと考える。</li> <li>●市民意識調査が上がっているが、まだ二割程度なので、今後期待したい。</li> </ul>	
		発達支援センター管理運営費	② 2名			
			③ 0名			
			④ 0名			
			⑤ 0名			
4	1	4-6	① 4名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域団体がまちなかで行う活性化事業を支援しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●起業に繋がるストーリーの創出。その見える化。市民からの愛着。地域連携のお手本となって欲しい。</li> <li>●空き家活用と連携して積極的に行って欲しい。移住希望者にも魅力的な提案内容になるとよい。</li> <li>●園部地域から他の地域への広がりを期待する。</li> <li>●起業に繋がるストーリーが見えにくいと市民参加が進まないため、発信して知ってもらい取り組みが大事。</li> </ul>	
		中心市街地活性化事業	② 5名			
			③ 0名			
			④ 0名			
			⑤ 0名			
4	1	4-7	① 4名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●限界集落が増加している。継続した支援が必要である。</li> <li>●地域団体と集落支援員が連携して、計画的・継続的に取り組んでおり、有効な施策と判断する。</li> <li>●絶対に必要な事業だと思う。願わくば、若い住人が住みつき、地域のまとめ役に育つような仕掛けも必要だと考える。</li> <li>●空き家活用と連携して積極的に行って欲しい。移住希望者にも魅力的な提案内容になるとよい。</li> </ul>	
		集落活性化支援事業	② 5名			
			③ 0名			
			④ 0名			
			⑤ 0名			

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
4	2	4-8 市民協働推進事業 (地域振興課)	① 6名 ② 3名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中間支援センターである「南丹市まちづくりデザインセンター」と連携して取り組んでおり、有効な施策と判断する。</li> <li>●ここから市民活動として継続されていることが見える化されることを期待する。</li> <li>●少額ながら、こうした姿勢を続けることで、市民活動を発掘することが重要と考える。</li> <li>●地域コミュニティ持続のため、市の負担を減らしながら住民が活動でき、有効だと考える。</li> <li>●事業については有効と思うが、デザインセンター事務所が国道沿いで遅くまで灯りが点いていることに疑問を感じる。</li> </ul>
4	2	4-9 小学校跡施設活用推進事業 (総務課)	① 4名 ② 4名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の活動拠点となる施設は、それぞれの地域が独自の発想や創造性を生む重要な場所となっている。学校跡地の活用は、今後も期待している。</li> <li>●美山町では地域の拠点施設として、人との交流、生涯学習の場として活用されている。</li> <li>●施設の維持管理に多額の費用が掛かっており、施設が将来にわたって本当に必要か検討が必要。他自治体のような民間移譲も検討すべきであると考え。</li> <li>●新たな地域アイデンティティやシビックプライドの醸成につながっており、有効な施策と判断する。</li> <li>●地域住民が立ち上がり活動を進めているのは評価できる。その後の活用について、その地域の住民の他、多様な人たちに関わっていただき、活用を検討して欲しい。</li> <li>●地域コミュニティ持続のため、市の負担を減らしながら住民が活動でき、有効だと考える。</li> <li>●あまり活用の可能性がないところは、解決策を考えねばならない。</li> </ul>
4	3	4-10 小学校跡施設管理費 (地域振興課)	① 4名 ② 5名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の活動拠点となる施設は、それぞれの地域が独自の発想や創造性を生む重要な場所となっている。学校跡地の活用は、今後も期待している。</li> <li>●地域活性化センターと位置づけ、地元組織が創意工夫しながら取り組んでおり、有効な施策と判断する。</li> <li>●地域住民が立ち上がり活動を進めているのは評価できる。その後の活用について、その地域の住民の他、多様な人たちにかかわっていただき、活用を検討して欲しい。</li> <li>●地域コミュニティ持続のため、市の負担を減らしながら住民が活動でき、有効だと考える。</li> </ul>
4	3	4-11 森の京都推進事業 (観光交流室)	① 6名 ② 2名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●南丹市にかかる事業が少なく、上記に挙げられている観光関連事業との連携が求められる。</li> <li>●連携による成果は大きく、高く評価する。</li> <li>●京都府及び関係市町と連携して、広域的な観光・マーケティング・プロモーション事業を展開しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●地域資源の発掘やその連携を行う主体として、森の京都DMOに期待する。</li> <li>●DMOの活動が民間企業に周知され、そこで連携が生まれることを期待する。</li> <li>●時節柄事業がしにくい年だったと思うが、住民に活動があまり見えてこない（海の京都やお茶の京都のほう）が取り組みが見える）ので、今後さらに、自治体どうし連携した取り組みを期待したい。</li> <li>●今後の動きに期待する。</li> </ul>
4	3	4-12 国定公園推進事業 (環境課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍の影響も考えられるが、対象事業費に対してアウトプットが少ないため今年度以降さらなる事業の充実を期待する。</li> <li>●京都丹波高原国定公園の拠点施設として、京都府、近隣自治体、美山DMOと連携してビジターセンターを運営しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●事業費に対して関連売上が少なく感じる。来場者集が多く集まっており、何かしらの収入を得られないか。</li> <li>●貴重な地域資源であり、見どころの発掘や発信をさらに促進することを期待する。</li> <li>●コロナ禍のなかでも人気のある美山町エリアだが、予算規模が大きい分、美山町以外の地域への波及効果や、森の京都DMOとの連携がもっと図れるとよかった。</li> </ul>
4	3	4-13 アーティスト・イン・レジデンス事業 (地域振興課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民には知られていない事業ではないか。</li> <li>●京都府と連携して、若手アーティストが南丹市内に滞在し、地域住民と協働しながら、プロジェクトや作品プラン構想を進めており、有効な施策と判断する。</li> <li>●取り組みの方向性は非常に良いと思う。多くの市民を巻き込んだ活動になることを期待する。</li> <li>●若手アーティストの視点は貴重で、住民の意識を変える取り組みになり得るが、住民への周知があまりに少ないため、内容が住民に還元されていないように思う。今年度の滞在制作&amp;発表は、もっと住民が関わられるような内容になるとよい。</li> </ul>